

保護者の皆様へ

2025年度 学校関係者評価の公表

2025年度の学校評価委員より2025年度の学校関係者評価を得ましたので、書面にて公表させていただきます。

2026年3月2日(月)
幼稚園型認定こども園
小羊幼稚園

1. 本園の教育目標

キリスト教保育を土台として、園児の自発性・自主性の発達を目指す自由保育を行い、それぞれの子どもに秘められた可能性の伸展に取り組む。

2. 2025年度、重点的に取り組む具体的な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、各教師自身が客観的に自園を見る目を養う。2025年度は、幼稚園型認定こども園に移行して3年目であり、全学年が当初より1号（幼稚園タイプ）と2号（保育園タイプ）が共存する状態となり、異なる家庭環境を背景に持つ園児と保護者への取り組みに対する評価（反省と改善）を踏まえた保育内容の見直しに関して、主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

A; 十分達成されている
B; 達成されている
C; 取組まれているが成果が十分でない
D; 取組が不十分である

3. 学校関係者の評価

①建学の精神や教育目標が教育活動に反映されている。

⇒ A

②年間の指導計画や週案などが作成され、適切に教育課程が実施されている。

⇒ A

③園児の主体的な活動を尊重し、一人ひとりの発達の特性に応じた指導がわれている。

⇒ A

④保育後、子どもの遊びの保障（少子化対策）・保護者の子育て支援を目的として預かり保育（通常保育時間後・長期休暇中）を行う。

⇒ B

⑤健やかな心と体を育むための保育に取り組んでいる。

⇒ A

⑥特別に支援が必要な園児には、必要に応じて医療や訓練などの専門機関や専門の教育機関と連携している。

⇒ B

⑦園内で幼児理解を深めるため、事例検討会が定期的に行われている。

⇒ A

⑧自己評価を年1回以上定期的を実施し、その結果を翌年度の目標等の改善に活用している。

⇒ B

⑨園だより・クラス懇談会などを使い、園の教育などについて適切に情報を提供し、意見・要望の把握と共に保護者がいつでも相談できる場を設けている。

⇒ A

⑩子育て支援活動は、地域や保護者の実情や要望に応えられるよう工夫を行っている。

⇒ B

4. 総合的な評価

⇒ B

①幼稚園型認定こども園に移行して保育時間が長くなり、職員の勤務時間もシフト制を採用することで教職員全体が情報共有することにも一工夫が必要だと感じる。教職員が疲弊せずに、ゆとりをもって職務を全うできる職場環境であるように望みます。

②1号（幼稚園タイプ）と2号（保育園タイプ）という家庭環境が異なり多様な対応が求められるなかで、保護者が教職員との距離感が近く“相談しやすい”と感じられることも園の魅力だと思います。

③一人ひとりの個性を尊重し、自主性・創造性を活かした小羊の保育を大切にしつつ、時代のニーズに合った柔軟な対応で保護者から信頼され続ける園だと感じます。

④園の魅力や活動がまだ伝わり切れていないので、地域の子育て世代に向けた情報発信に工夫が必要かもしれません。